

2008年度 代表事業③

事業名

10月度第一例会 まちづくり政策例会～JCT (Jaycee Teacher) ～

委員会

まちづくり政策委員会
委員長：藤田 博久

副委員長：森 康博
副委員長：渡辺 章人
幹事：渡辺 正臣



事業趣旨要約

未来のまちの担い手である子供達に、人として成長していく過程でのおもいやることの大切さ、周りの人や物に感謝することの大切さを言葉と行動で示して参ります。青年会議所メンバーが学校教育という場に積極的に働きかけ、道徳心を尊び、人と人が関わり合うこと大切さを子供達に対し態度で示し、広く発信することによってこのまちにおける地域教育の一翼を担って参ります。

背景

- ・核家族化が進み、他人に対する関心が薄れ、人や物に対し感謝し大事にするところが少なくなっている。
- ・まちづくり運動という市民参画の場においても、市民自らが主役であるという本来の意識、そして自分たちが生まれ住んでいる地域を積極的に良くしていこうという身近な関わり合いの機会が少ないというのが現状。
- ・青年会議所は創設以来、まちづくりの先駆者たるべき存在として先頭に立ち、豊かなまちの実現への可能性を示してきた。おもいやりあるまちの創造が希求される今の時代、地域に根ざした青年の集団だからこそ持つ、新たな発想や行動力を最大限に発揮していかなければならない。

効果

対外：授業を通じて将来の夢、自分自身を認識し、同時に人の考えに触れ人の気持ちがわかるようになる。クラス担当と協働することで学校と地域とが結びつく。
対内：講師として参加することにより、自らも人を大事にする気持ちを再認識する。青年会議所メンバーが地域教育の担い手となる。

例会の流れ・目的

「基本方針：「感謝」の気持ちを伝える青少年教育」の実現に関する事項

学校教育の現場において職業人としての立場からおもいやりを伝え、子供とともにおもいやりの気持ちを考えて子供達に感謝の気持ちを伝える。

JCTメンバーが静岡市内の中学校13校に赴き、1コマ50分の授業時間を頂いて、未来のまちづくりの担い手である子供達に対し「やる気や情熱」、「人間対人間」ということを伝えていく授業を生徒たちと一緒に作っていくことを目的とした事業。

JCTメンバーがクラス担当と協働し、中学生1年生の前で教壇に立ち、職業人としての立場から、将来の夢や自分自身を認識できるようにし、同時に人の考えに触れ人の気持ちがわかることができるように教鞭を執る。

子供達に一番伝えたいことは、詳しい職業の中身ではなく、仕事とは自己実現の手段であり、仕事を通じて何を一番大切にしているか、仕事を通しての経験や必要なものなどを伝えること。そして、話のうまい下手ではなく、生きる力、情熱、自分が大切にしているものに対する思いを語り、「大切なこと」を語り伝える姿を子供達に見せ付けることを目的としている。

そしてこの事業を通し、単なる情報の提供ではなく真剣に語る姿を見せることで、「カッコいい大人」を感じてもらい、生徒自らの自覚、意識の発芽を促し、友達、クラスのみならず、学校全体、その地域全体とその気持ちが伝播し、この地域のまちづくりの一環となることを目的とする。

達成検証

対外：子供達に職業、気持ち、おもいやりについて語るにより、将来の夢、自分自身を認識し、人の気持ちがわかるようになった。クラス担任と一緒に授業をすることで学校と共に地域教育が出来た。

対内：教壇に立ち、おもいやりについて語り、人を大事にする気持ちを再認識できた。子供達に教えることにより、地域教育の担い手となった。

基本方針「感謝」の気持ちを伝える青少年教育の実現への効果。

学校教育の現場において職業人としての立場からおもいやりを伝え、子供とともにおもいやりの気持ちを考えて子供達に感謝の気持ちを伝えることができた。

所見

市内13校での開催ということで、場所はメンバーによって違いましたが、実際に教壇に立ったメンバーやサポートとして参加していただいたメンバーからの声を聞いても全体としてメンバー共通の達成感を得ていただけたのではないかと思います。本事業の実施にあたっては、静岡市、教育委員会、各中学校等との協議を重ねて参りましたが、それらを通して学校教育の現場が青年会議所に寄せる期待の大きさを感じることができました。今日、静岡市の中学校ではキャリア教育の一環から職業体験・職場訪問等のカリキュラムに力が入れられており、本事業もその必要性から実現したものであります。今後も、地域に密着した青年会議所メンバーの事業所に対して、各学校から協力要請が寄せられると思いますが、地域教育の担い手たる青年会議所として、組織的、積極的な協力をお願いする次第です。

目的

対外：授業を通じて将来の夢、自分自身を認識し、同時に人の考えに触れ人の気持ちがわかるようになる。クラス担任と協働することで学校と地域とが結びつく。
対内：講師として参加することにより、自らも人を大事にする気持ちを再認識する。青年会議所メンバーが地域教育の担い手となる。

事業概要

実施日時：2008年10月16日(木)13時～15時 実施場所：静岡市内各中学校

参加人数：社団法人静岡青年会議所メンバー 約120名 静岡市内13校の中学校1年生及び先生方。

対内：講師として参加することにより、自らも人を大事にする気持ちを再認識する。青年会議所メンバーが地域教育の担い手となる。

JCTメンバー：気持ち・一生懸命な姿を伝える

・仕事や職業を通しての経験や必要なもの、大切なものを中学生に伝える。話の内容やうまい下手ではなく、その思いや気持ち、姿勢を見せる。

生徒：自己実現

・「大人」の真剣な姿を見ることにより自分の将来の仕事や職業などを自覚、意識の発芽を促す。

JCTを通して：気持ちの伝播

・地域全体に気持ちが伝播し、まちづくりの一環となる。



担当委員長Q&A

01 事業選定の理由、想いを聴かせてください。

対外事業なので教職関係者との折衝に苦労しました。大切な授業の一コマをお借りするので、必ず講師役のメンバーを確保しなければならないわけですが、一方で平日の昼間に実施する事業のためメンバーの確保が大変でした。当委員会のもう一つの事業である、「Voice of 静岡」と時期が近かった為、準備が大変でした。

02 メンバーをまとめる上で苦労した点を教えてください

とにかく必死で取り組んでいたので、自分を支えてくれたメンバーに感謝の気持ちはありますが、特に苦労は感じませんでした。

03 事業の中で1番印象に残った出来事は何ですか？

先生となったメンバーが独自に資料を作成し、主体性をもって熱い気持ちで授業を行ってくれたことです。

04 事業実施にあたっては、静岡市、教育委員会、各中学校等との協議を幾度となく重ねてこられたと思います。それらを通して学校教育の現場が青年会議所に寄せる期待とはどの様なものと感じられましたか？

当時は各学校においては、キャリア教育の一環として企業が求める人物像などの職業に関する授業を行いたいという要望があり、職業人であるJCメンバーが講師を行うという事業内容が受け入れられました。

05 講師役のメンバーの感想はどうでしたか？

実際に教壇に立ったメンバーは皆、「やって良かった」という達成感を得ていました。

取材全体としてのまとめ・感想

JCにとっても、教育関係者にとっても青少年育成事業としてとても良い事業だと感じたと同時に、平日の昼間に一斉開催するためには講師の確保が困難を極めました。藤田委員長が言っていた様に、JCと様々な団体ももっとセッションを行い、JCができること、JCにしかできないことを模索し、このような事業は継続していきたいと思いました。

06 受けた生徒の反応はどうでしたか？検証結果を教えてください。

全生徒にアンケートをとった結果、講師役のメンバーに対する感謝の言葉や、「おもしろかった」、「将来の職業、仕事を考えるうえで参考になった」などとても多くの良い感想を得ることができました。

07 現在はJCの手を離れ、同様の事業が行われています。

経験を踏まえ今後どの様な方法・方式で行っていくことが望ましいと思いますか？
学校によっては、「もう一度やって欲しい」と積極的なところもあるので、個別に対応して行うのが良いと思います。また、生徒たちにとってもいろいろな職業を知ることができる良い機会になります。

08 青年会議所としてこの事業の経験を活かしていく方策は何かありますか？

校長会等に出て、「JCとしてこんな活動を行いたい」と意見を発信するなど、色々な団体と連携してJCの活動・運動を理解してもらうことも1つの方策だと思います。



取材前後での特に気付いた点

児童を1カ所に集め職業体験を行う未来学園と似た事業だと思っていたが、実際には職業人であるJCメンバー120名近くが先生役になり通常授業の1コマをお借りして、各中学校に向き教壇に立つという壮大な事業のため、平日の昼間に大勢の講師役メンバーを確保するという相当の苦労があったのだと分かりました。